

2021年11月8日

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

Energy Transition Initiative-Center for Global Commons の立ち上げについて

三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 ^{かめざわ ひろのり} 亀澤 宏規、以下 MUFG）、国立大学法人 東京大学および日本の主要企業 12 社^[1]は、今般、日本のエネルギー・トランジションを検討するイニシアティブ、Energy Transition Initiative-Center for Global Commons^[2]（以下 ETI-CGC）を立ち上げました。

ETI-CGC は今世紀半ばまでに脱炭素（温室効果ガス排出量実質ゼロ）を実現する日本の道筋（パスウェイ）について議論するだけにとどまらず、議論を世界に発信することで、日本と同様にさまざまな事情を抱える世界の国々の脱炭素化への取り組みに対する理解を促進し、カーボンニュートラルの実現に貢献したいという志を掲げており、次の5つの原則に基づき、推進されます。

1. グローバル・コモンズである地球環境の持続可能性を守る。このため、日本の温室効果ガスの排出を 2050 年までにネットゼロにするパスウェイを描く。
2. 世界や日本における知見および科学的洞察を基に、カーボンニュートラルを達成し、幸せと豊かさを実現する、地域事情に沿ったパスウェイを模索する。
3. この実現が、多様な地域事情を抱える国々にとっても役立つモデルとなり、世界全体のカーボンニュートラルに貢献することを目指す。
4. パスウェイを実現していく過程は、日本の産業構造、経済社会システムや行動様式を未来に向けて変えていく機会であると考え、どのようにその機会を活かすかをも議論していく。
5. 関連する政策提言などを行い、日本における議論を広く興すため、リーダーシップを発揮する。

MUFG は ETI-CGC の創設メンバーとして、金融機関の立場から ETI-CGC の活動に積極的に貢献してまいります。

また、MUFG は、東京大学と 2021 年 6 月にカーボンニュートラルの実現に向け協働していくことで合意^[3]（以下 本合意）しております。本合意に基づき、日本の脱炭素化へのパスウェイとその実現における金融の役割に関して、10 月に共同での研究活動に着手いたしました。ETI-CGC での日本のパスウェイについての議論を研究の前提として踏まえつつ、東京大学とともに、科学的な知見を活用しながら、金融機関の貢献を考察・研究してまいります。

^[1] AGC 株式会社、株式会社 JERA、住友化学株式会社、ソフトバンク株式会社、ダイキン工業株式会社、東京電力ホールディングス株式会社、トヨタ自動車株式会社、株式会社日立製作所、株式会社三井住友フィナンシャルグループ、三井物産株式会社、三菱ガス化学株式会社、三菱ケミカル株式会社（50 音順）

^[2] ETI-CGC の詳細については、東京大学の以下リンクをご参照ください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/actions/gx.html>

^[3] カーボンニュートラル実現のための産学連携の詳細については、以下のリンクをご参照ください。

https://www.mufg.jp/dam/pressrelease/2021/pdf/news-20210617-001_ja.pdf

以上